

## 大会後の運営管理に関する検討ワーキングチーム（事務ヒアリング）概要

日 時 平成29年8月7日（月） 会場 文部科学省16F3会議室

出席者 スポーツ庁 今里次長（事務局長）

内閣官房 中川総括審議官

J S C 望月理事・新国立競技場設置本部長

東京都 鈴木オリンピック・パラリンピック準備局次長

## 〔日本ラグビーフットボール協会の発言内容〕

- 東京大会後の利用については、①日本選手権の準決勝・決勝、②日本代表戦の6月の3試合程度及び11月の1～2試合程度、③大学選手権の準決勝・決勝、④トップリーグの主要数試合、⑤大学リーグの主要数試合を予定。
- サンウルブズの利用については、2019年まではスーパーラグビーとの契約で、ホームが秩父宮となっていること、また、将来的なスーパーラグビーの仕組みやサンウルブズの参画の有無が不明であることなどから、言及すべきでない。
- トップリーグや大学リーグの開催時期は9月～1月であるが、W杯の開催時期によって変わりうる。なお、対戦カードによって集客数が変わってくる。
- この他のスポーツイベントは、主に秩父宮の利用を考えている。
- 施設面での機能については、芝生のコンディション維持が最も重要。その他、インゴールエリアの確保、バリアフリー化、ホスピタリティ機能、放映に関する機能、観客席の要件、ドーピング検査室の要件、脳震盪のチェックに必要な部屋の配置など、聞いている範囲では現状で問題ないと考えている。
- 施設の規模については、4～5万人規模を常時集客するのは困難で、ラグビーの試合には大きいとの印象。過去にオーストラリア対ニュージーランド戦を開催した際に5万人が最高。
- コンセッション事業の運営に当協会として参画するかは判断に至っていない。条件次第だが難しい。また、新国立と秩父宮を一体的に運営することは難しいと思われ、当協会として秩父宮に傾注したい。（なお、地元の商店街は、秩父宮と神宮球場の組合せで考えており、ビジネスの観点からはその方が良い。）